

平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月12日

上場会社名 株式会社 フォーバル・リアルストレート  
 コード番号 9423 URL <http://www.realstraight.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役 社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理部長  
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月12日  
 配当支払開始予定日 —

(氏名) 武林 聡  
 (氏名) 早川 慎一郎

TEL 03-5468-6902

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	448	△21.4	△52	—	△53	—	△66	—
25年3月期第3四半期	570	—	△46	—	△46	—	△40	—

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 △66百万円 (—%) 25年3月期第3四半期 △40百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	△3.16	—
25年3月期第3四半期	△2.29	—

(注)平成25年10月1日付で、普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算出しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	120	△38	△37.1
25年3月期	145	21	11.1

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 △44百万円 25年3月期 16百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	△55	—	△55	—	△70	—	△3.31

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	21,254,900 株	25年3月期	21,075,000 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	— 株	25年3月期	— 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	21,089,747 株	25年3月期3Q	17,760,000 株

(注)当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該分割が行われたと仮定して、発行済株式数(普通株式)を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 2「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀の大規模金融緩和により、円高是正や株価上昇が進み、緩やかな回復基調が続いております。しかしながら、中国をはじめとするアジア経済圏の成長ペース鈍化、円安や原油高に伴う輸入材料価格の上昇等に加え、消費税率引き上げによる国内景気減速懸念もあり、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような経済環境の中、東京都心5区（千代田・中央・港・新宿・渋谷区）のオフィスビル市場においては、平成25年12月末時点の平均空室率が7.34%となり、前連結会計年度末比で1.22%低下しております。（注）

その一方で、東京都心5区の平成25年12月末時点における平均賃料は前年同月比で365円（2.20%）下落し16,207円/坪となり、前月比でも12円（0.07%）下落しました。（注）

当第3四半期連結累計期間において、当社は引き続き顧客企業の移転時における、不動産物件の仲介から内装工事、各種インフラの整備やオフィス機器・什器の手配までをトータルにサポートするソリューション事業を中心に事業活動を進めてまいりました。

不動産仲介等の売上高については、前年同四半期比10.6%減の89,329千円となりました。

内装工事等の売上高につきましては、前年同四半期比5.4%増の321,385千円となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は448,891千円、営業損失は52,895千円、経常損失は53,159千円、法人税等を差し引いた四半期純損失は66,602千円となりました。

（注）大手不動産会社調べ

### (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、120,837千円（前連結会計年度末比24,716千円減）となりました。流動資産につきましては、111,621千円（同7,472千円減）となりました。増減の主な要因は、現金及び預金の増加3,717千円、受取手形及び売掛金の減少11,199千円であります。

負債は、159,398千円（同35,224千円増）となりました。増減の主な要因は、関係会社短期借入金の増加55,000千円、前受金の減少7,261千円であります。

以上の結果、純資産は、当第3四半期連結会計期間における四半期純損失の計上等により△38,561千円（同59,940千円減）となり、再び債務超過に陥っております。自己資本比率は、前連結会計年度末の11.1%から△37.1%となりました。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年3月期の業績予想につきましては、平成26年2月12日に公表いたしました内容をご確認ください。

なお、本資料は発表日現在において入手可能な情報に基づいた見通しであり、実際の金額はこの後の様々な要因によって変動する場合があります。

## 2. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度（事業年度）まで3期続けて営業損失を計上しており、当第3四半期連結累計期間においても引き続き営業損失を計上していることから、継続企業の前提に関する重要事象等が存在しております。

当社グループにおいては、当該状況を解消し黒字化を図ることが取り組むべき最優先課題であると考へており、以下に示す施策に取り組んでいる最中でございます。

### ・ソリューション事業の強化及び収益力の向上

不動産物件の仲介から内装工事、各種インフラの整備やオフィス機器・什器の手配までを行うソリューション事業においては、引き続き取り組みを強化してまいります。具体的には、物件情報の充実、機能拡充等、ナビサイトの適時更新による集客の強化に加え、更なる案件抽出を企図した新サイト作成、カグクロ(株)と共同運営する法人向け賃貸事務所検索サイトのリリースや一括問合せサイトへの登録、オフィス環境改善に関する紹介サイト（Office mill）への登録等、各種方法による集客強化を行ってまいりました。さらに、問合せチャネルの複線化としての紹介営業や代理店の構築、グループ会社顧客への働きかけ強化等による紹介案件の創出についても、コンスタントに問合せを獲得しており順調に推移しております。問合せ数の底上げを図るため、テレアポイント要員の増加及びチームの結成、平成25年3月に完了いたしましたナビサイトの改修などを行っており、今後更なる問合せ数増加を見込んでおり、引き続き各取り組みを強化してまいります。

また、コスト面につきましては事業全体レベルでフォーバルグループのリソースと共有化を図り、引き続き低コストオペレーション化に取り組むことと、たとえ1円であろうと、必要でない経費は使わないという意識を、継続的に社内全体に浸透させることで、収益力の向上を図ってまいります。

### ・事業基盤の強化

ナビサイトや代理店等からの紹介、グループ会社顧客への働きかけ等、不動産関連業務の問い合わせからオフィス仲介、内装工事、各種インフラ・オフィス機器、オフィス什器の手配までの各プロセスの数値管理を徹底することと、業務フロー・役割分担を明確化することによる顧客対応レベル及びサービスレベルを向上させることで、引き続き事業基盤の強化を図ってまいります。

あわせてコーポレートスローガンである「「見つかる」「創る」「活かす」」のリリースや、「FRSの強み」のリリース、当社ナビサイト「オフィス移転navi」の認知度向上のためのオリジナルエコバッグの作成や季節のイベントに合わせたノベルティの作成・配布等、コーポレートブランド構築のための施策を随時実施しております。

当社グループは、上記の施策を実行することで営業損益及び営業活動によるキャッシュ・フローの改善を見込んでおります。また、平成25年10月11日に親会社である(株)フォーバルと貸付極度額60,000千円の特別貸付極度枠約定書を締結しており、当第3四半期連結会計期間末時点で55,000千円の資金調達を実施しております。さらに平成25年3月には第三者割当増資の引き受け先として資金支援を受けております。以上のことから、今後も親会社からは必要に応じて資金支援を受けることが可能と判断しております。

当社グループといたしましては、以上のことから、継続企業の前提に関する重要事象等を解消できるものと考えており、継続企業の前提に関する不確実性は認められないものと判断しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	35,380	39,098
受取手形及び売掛金	85,683	74,483
その他	6,309	6,088
貸倒引当金	△8,280	△8,049
流動資産合計	119,093	111,621
固定資産		
有形固定資産	6,621	—
無形固定資産	8,812	—
投資その他の資産		
差入保証金	10,868	9,186
破産更生債権等	16,220	16,282
その他	157	30
貸倒引当金	△16,220	△16,282
投資その他の資産合計	11,026	9,216
固定資産合計	26,460	9,216
資産合計	145,553	120,837
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	76,870	79,391
関係会社短期借入金	—	55,000
未払金	10,216	5,721
未払費用	9,688	8,966
未払法人税等	1,702	897
前受金	9,123	1,862
賞与引当金	7,911	3,634
その他	8,661	3,925
流動負債合計	124,174	159,398
負債合計	124,174	159,398
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	176,506	179,356
資本剰余金	76,506	79,356
利益剰余金	△236,916	△303,519
株主資本合計	16,096	△44,805
新株予約権	5,283	6,244
純資産合計	21,379	△38,561
負債純資産合計	145,553	120,837

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 四半期連結損益計算書  
 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	570,879	448,891
売上原価	379,030	283,018
売上総利益	191,849	165,872
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	94,557	86,663
賞与引当金繰入額	4,067	1,933
その他	139,789	130,171
販売費及び一般管理費合計	238,414	218,768
営業損失(△)	△46,565	△52,895
営業外収益		
受取利息	2	3
雑収入	22	8
営業外収益合計	25	12
営業外費用		
支払利息	353	276
その他	0	—
営業外費用合計	353	276
経常損失(△)	△46,892	△53,159
特別利益		
新株予約権戻入益	6,909	—
事業譲渡益	—	500
特別利益合計	6,909	500
特別損失		
減損損失	—	13,177
特別損失合計	—	13,177
税金等調整前四半期純損失(△)	△39,983	△65,837
法人税、住民税及び事業税	765	765
法人税等合計	765	765
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△40,749	△66,602
四半期純損失(△)	△40,749	△66,602

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△40,749	△66,602
四半期包括利益	△40,749	△66,602
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△40,749	△66,602

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第3四半期連結会計期間(自平成25年10月1日至平成25年12月31日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間において66,602千円の四半期純損失を計上いたしました。この結果、当第3四半期連結累計期間において38,561千円の債務超過となっております。

(セグメント情報等)

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

当社は、ソリューション事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。